

開設年度		開講部局	
2011		共通教育	
科目名			
エネルギー環境教育論 A			
英語科目名			
Energy and Environmental Education A			
前後期	開講区分	科目形態	
前期	毎週	講義	
単位数	大分類(科目)	中分類(分野)	
2	教養科目	分野3	
受講学部学科			
全			
担当教員		担当教員所属	
萩原 豪		稲盛アカデミー	
連絡先(TEL)		連絡先(MAIL)	
099-285-3757		k6219828@kadai.jp	
オフィスアワー(授業時間外の対応)			
【オフィスアワー】毎週木曜日 3 時限目@萩原研究室			
オフィスアワーでの対応については、できるだけ事前にメールでアポイントをとるようにしてください(ダブルブッキングを避けるため)。			
共同担当教員			
キーワード1		キーワード2	
視野・判断力・探求能力		コミュニケーション能力と相互理解	
授業概要(目的・内容・方法)			
<p>[背景] 近年、地球温暖化問題や、CO<sub>2</sub>(二酸化炭素)の排出を抑制しよう、という動きがあることはいろいろな場所で取り上げられています。地球温暖化問題とCO<sub>2</sub>の関係について知っている人が多いと思いますが、これが私たちの何気ない日常生活やライフスタイルに大きく起因していることは、普段あまり意識していないと思います。石油に代表される資源やエネルギーを使うことによって、私たちの生活は成り立っていますが、このままでは地球は持続不可能になることは自明です。この状態を回避するべく、私たちは次世代のために「持続可能な社会」を構築していく必要があります。</p> <p>[目的および方法] 本講義では現代社会におけるエネルギー環境教育の重要性について、いわゆる石油や原子力などのエネルギー問題だけではなく、水資源や食資源などにも着目し、「持続可能な社会の構築」という視点から考えていきます。また、現在展開されているエネルギー環境教育やESD(持続可能な開発のための教育)が包含している国際理解教育や開発教育などの関連領域や、日本やアジアにおける具体的な実践例を取り上げます。身近なモノやコトを通じて「持続可能な社会」に対する知識・認識の共有化を行っていき、国際社会が模索している「持続可能な社会」の在り方について受講生と一緒に考えていきます。そのため、ワークショップ形式で受講生がお互いに考え学んでいくスタイルをとります。</p>			
学習目標			
<p>(1) 環境教育やESDの国内外の動向を理解するとともに、資源・エネルギー問題を通じて環境問題を多角的な視点から考察していくことができるようになること。</p> <p>(2) 自分の眼と耳と足で情報を探して作りだし、問題を発見・考察・分析・整理・発表するという社会人としての基礎技術の習得。</p> <p>(3) ワークショップやグループワークなどの協働作業を通じて、問題認識力およびコミュニケーション力の習得と、積極性や責任感の醸成。</p> <p>(4) プロジェクトの企画やレポート作成などを通じて情報収集力やITスキル(PCやインターネットの使い方)、文章力やプレゼンテーション力の習得。</p>			
授業計画(15回に分け、回数、授業内容、自学自習等)			
<p>[授業内容および方法] 第1回目の授業ではガイダンスを行い、履修希望者の関心がどのようなところにあるのかを確認していきます。授業で取り上げる作品は受講生の関心や時事的なテーマなども踏まえて、その都度、柔軟に対応していきます。授業はワークショップ形式で行います(講義とグループワークを組み合わせます)。グ</p>			

グループワークについては授業時間外にグループメンバーと連絡をとりあったり発表準備などの作業をする必要が出てくると思います。

- ・ガイダンス
- ・環境教育とは何か、その背景と現状、近接領域
- ・ESD（持続可能な開発のための教育）の現状と課題
- ・資源・エネルギー問題の現状と課題
- ・環境教育施設見学会（場所未定）
- ・グループワーク
- ・研究報告会（かごしま環境未来館）
- ・ふりかえり

[ 授業時間外活動 ] 週末の時間を利用して正規の授業を行うことを計画しています。7月中旬：研究報告会（かごしま環境未来館：グループワークで行ってきたことを発表してもらいます）。時期未定：環境教育施設見学会（場所未定）。これらの活動は木曜4時限目の授業時間数に読み替えます。詳細については第1回目の授業（ガイダンス）でお知らせします。

受講要件	成績の評価基準
本講義のテーマに関心を持っていること。	<p>授業への参加度（授業態度やグループワークへの貢献度など）：60%、課題等提出物（リアクションペーパーやレポート、研究報告会の資料・最終レポートなど）：40%、で総合的に判断します。学期末試験は行いません。</p> <p>[ 注意 ] 次に該当する場合は評価対象外とします。(1) 出席が総授業数の3分の2未満の場合、(2) 研究報告会の後に提出する最終レポートの提出がない場合。</p>
教科書	参考書
<p>教科書は使用しません。必要な資料は授業で配布します。</p> <p>課題作成のために必要な書籍は別に指定します。</p>	<p>参考文献として書籍・新聞・雑誌・マンガ・映画・webなど、身の回りにある情報源から日常生活に関することを幅広く取り上げていきます。参考文献一覧は授業中に配布しますが、主たる参考文献として次のものを挙げておきます。</p> <p>(1) 阿部治・野田研一監修『あなたの暮らしが世界を変える 持続可能な未来がわかる絵本』山と溪谷社、2007年。</p> <p>(2) 稲盛和夫著、鹿児島大学稲盛アカデミー編『稲盛和夫講義集』鹿児島大学稲盛アカデミー叢書1、2010年。</p> <p>(3) 今村光章編『持続可能性に向けての環境教育』昭和堂、2005年。</p> <p>(4) エネルギー環境教育研究会編『持続可能な社会のためのエネルギー環境教育 欧米の先進事例に学ぶ』国土社、2008年。</p> <p>(5) 日本環境教育フォーラム編著『日本型環境教育の提案』小学館、2000年。</p> <p>(6) 東京商工会議所編『環境社会検定（eco検定）公式テキスト（改訂2版）』日本能率協会マネジメントセンター、2010年。</p> <p>(7) 降旗信一・高橋正弘編著『現代環境教育入門』筑波書房、2009年。</p>
その他	
[ 受講者数制限について ] 受講者数は35名以内に制限します。履修登録人数が多い場合は抽選とします。この場	

合、第1回目の授業に出席した人に優先権を与えます。

[履修登録について] 履修希望者は第1回目の授業に必ず来てください。履修登録を行っても第3回目までの授業に出席しない場合、自動的に履修登録を無効とします。